

言語活動の充実をめざして

東広島市立西条小学校 横田 優美

1. 実践の趣旨

平成22年度「思考力・表現力を高める～言語活動の充実を通して～」という所属校の研究テーマのもとに取り組んだ。言語活動の充実とは、単元の目標を達成するために、言語活動が効果的に取り入れられたものと考え実践したものである。

2. 実践の概要

(1) 単元名

生き物ブックを紹介しよう
— ヤドカリとイソギンチャク (東京書籍4年上) —

(2) 単元の目標

○目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を読むことができる。【C読むこと(1)イ】

(3) 手立て

本時(5/12)における言語活動の取り入れ方

本時は、中心となる語や文をとらえて内容を正確に読み取る力をつけるために、習得事項と関連付けて「問い」に対応した「答え」を分かりやすくまとめて書く言語活動を取り入れた学習を展開した。

<思考力・表現力を高めるための単元における言語活動>

- ・文章から大切な語や文を選び、理由を付けて説明する。
- ・今までの学習内容と関連付けて説明する。
- ・書いてある事実を正確に読み取り条件に沿って自分の言葉で書き換えてまとめる。
- ・文章から必要な情報を取り出して、学習したことを基に書く。

(4) 指導計画

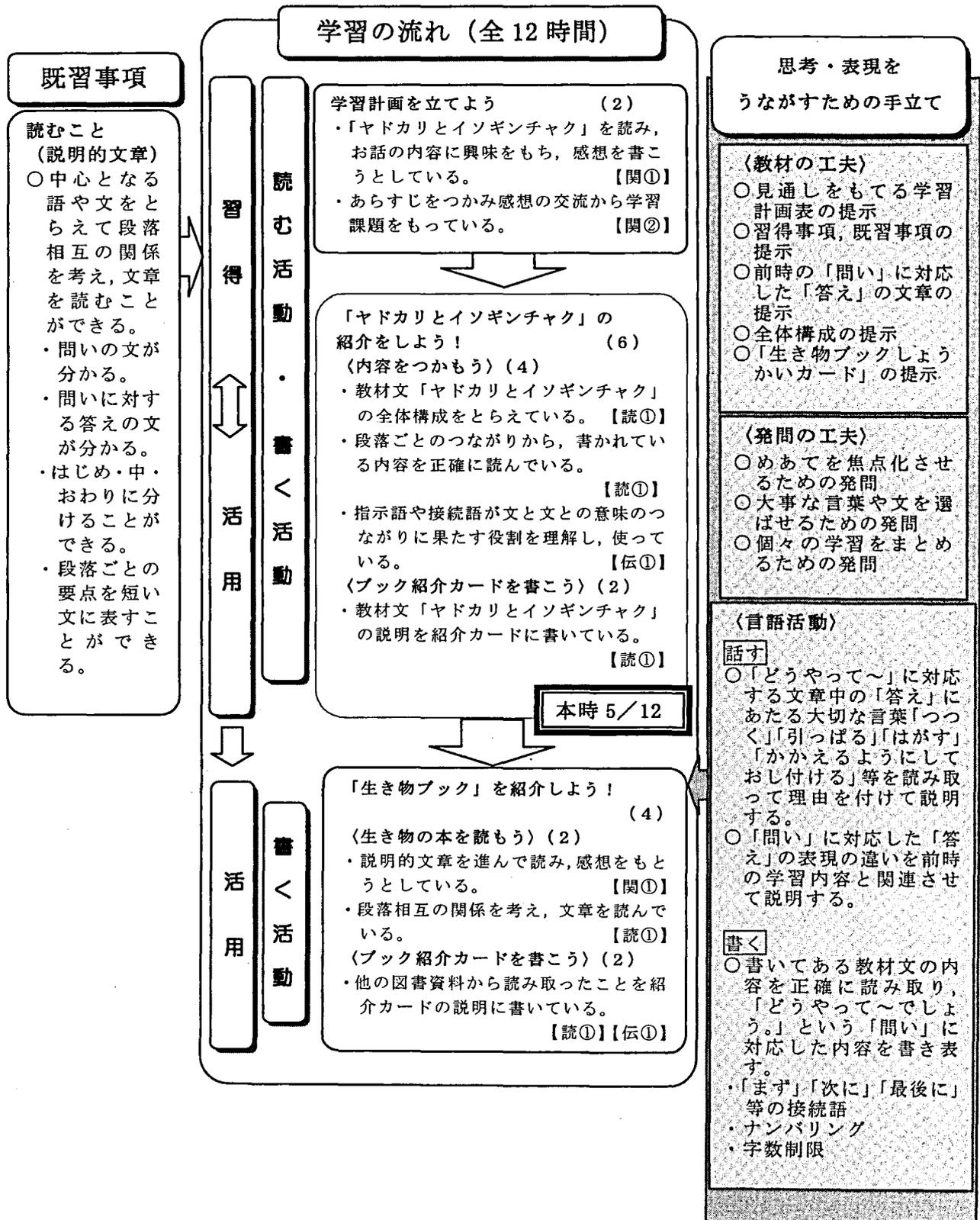
単元について

- 本単元は、第3学年までの段落ごとに内容をとらえて読む学習を基に段落相互の関係を考え、読むという説明的文章読解の基本を身に付けることをねらいとしている。本教材は、課題の提示、実験・観察、結果の段落構成が明確であり、段落相互の関係を考えながら内容を正確に読み取る力を身に付けることができる。また、「問い」と「答え」が三度繰り返されるという文章の構成から、筋道を立てて考える力も身に付けられる。
- 本単元の言語活動の場面では、筆者の「問い」に対応する「答え」を短くまとめて書く学習を活用して、文章から取り出した情報を紹介する「生き物ブック紹介カード」の作成を行う。それらの活動を通して、段落相互の関係を思考しながら、中心となる語や文をとらえて内容を正確に読み取ったり、読み取ったことをまとめて表現したりすることができる。

児童の姿

- 本学級の児童は、文学的文章を読み取る力より説明的文章を読み取る力が弱い傾向にある。目的に応じて、細かい点に注意して文章を読むことができにくい児童は、20%程度いる。(第3学年末学力テストの結果より)
- 自分と相手の考えを比較して話したり、聞いたりすることに比べて、相手や目的に応じてまとまりごとに書くという活動を苦手としている傾向がある。(単元学習前児童アンケート結果より)

〈单元構想図〉



〈本時の展開〉

目標

ヤドカリがイソギンチャクをどうやって自分の貝がらに移すのかを正しく読み取ることができる。

評価規準

- ・中心となる語や文をとらえて、ヤドカリはイソギンチャクをどうやって自分の貝がらにうつしているのか正しく読んでいる。【読①】

	主な学習活動（主な児童の思考の流れ）	教師のはたらきかけ	
つ か む ／ 深 め ・ 拡 げ る ／ ま と め ・ つ な げ る	1 前時の学習を想起し、本時の課題を確認する。	・前時までに学習してきたことをノートや掲示などを手がかりに確認させる。	
	ヤドカリはイソギンチャクをどうやって自分の貝がらにうつすのでしょうか。		
	2 音読を行う。（段落⑦～⑨）	・学習範囲を確認させる。	全体
	3 ヤドカリはイソギンチャクをどうやって自分の貝がらにうつすのかを読み取って発表する。 話・「どうやって～」に対応する「答え」の大切な言葉を読み取って理由を付けて説明する。	思 ・「問い」はどこに書いてあるでしょうか。 ・文末表現に着目させる。 ・前の時間の「問い」と違うところはどこでしょう。 ・「どうやって」は行動の順序や方法を問うことであることに気付かせる。 ・ヤドカリはイソギンチャクをどうやって自分の貝がらにうつすのでしょうか。 ・ヤドカリの行動を表現している部分に着目させて読み取らせる。 ・さし絵と言葉を結び付けて考えてみましょう。 ・絵と結び付けながら、「どうやって」という「問い」に対しての「答え」の部分には、順番や方法が書かれていることに気付かせる。	
	4 「答え」の部分を条件に沿って自分の言葉で書き換えてまとめる。 話・「問い」に対応した「答え」の表現の違いを前時の学習内容と関連させて説明する。 書・書いてある教材文の内容を正確に読み取り「どうやって～でしょう。」という「問い」に対応した内容を書き表す。	思・表 表 ・「答え」の部分をまとめて書きましょう。前の時間と同じように書けますか。 ・前時の「答え」のまとめでは理由や根拠の「～から」で答えられており本時の「答え」のまとめの順序や方法とは異なることに気付かせる。 ・まとめて書くために順序を示す言葉を確認かめる。（まず、はじめに、次に、そして、それから、おわりに、最後に、等） ・「答え」の部分を①順序に気を付けて書くための言葉を使い②120文字以内の条件で書き換えてまとめさせる。 ・適切に表現している児童を提示して本時のまとめを行う。 ☆中心となる語や文をとらえて、ヤドカリがイソギンチャクをどうやって自分の貝がらにうつしているかを読んでいる。（発言・ノート・ワークシート） ◇机間指導を行い、キーワードとなる言葉を提示したり、助言したりする。	全体
5 学習の振り返りを行う。	・振り返りと次時の課題を明確にする。	個	

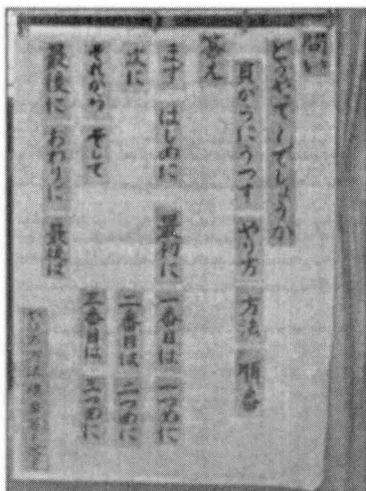
そして線を引いた文章表現を全体で交流し、挿絵を手がかりとしてヤドカリがイソギンチャクを貝殻に移す順序や方法を説明し合った結果、キーワードとなるヤドカリの行動を示す「すぐ近づく」「つつく」「ひっばる」「はがす」「かかえる」「おしつける」等の中心となる語や文に着目し内容をほとんどの児童が読み取った。キーワードと挿絵を根拠にして説明し合う言語活動を行ったことで、ヤドカリがイソギンチャクを自分の貝殻に移す動きが言葉とつながり、その様子をイメージできたことで方法や順序を問っている「どうやって～」に対する内容が読み取れたと考える。

- C 1 足を使って、イソギンチャクの体をつついたところです。・・・(C 2, C 3省略)
 C 4 かかえるのようにしてだと思えます。
 C 5 C 4に付け加えて、かかえるようにしておしつけるのですのところだと思えます。
 C 6 最初に近づいてきてだと思えます。
 C 7 付け加えて、すぐ近づいてきてだと思えます。
 T どうして「すぐ」を付け加えたの？
 C 7 ヤドカリのすぐに付けたい気持ちが伝わるからです。

<線を引いた「答え」の部分の言葉を基にして行った全体交流の一部>

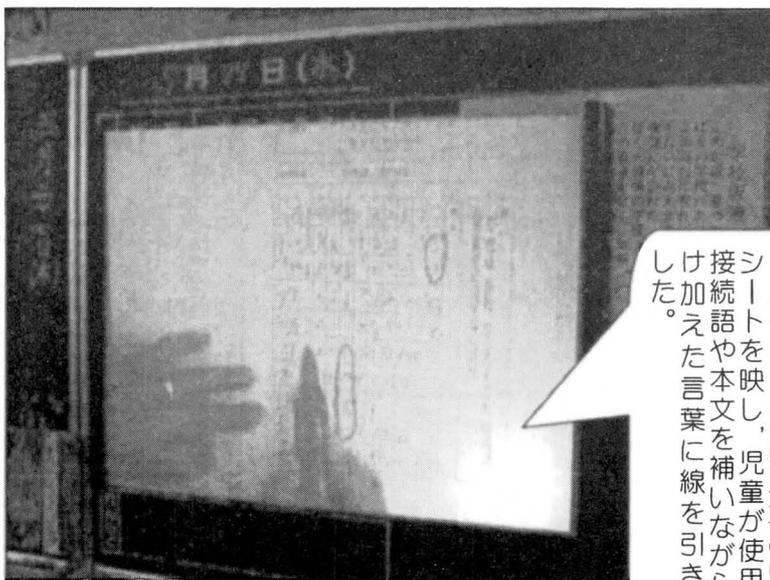
②表現力育成のための言語活動

「どうやって～でしょうか。」という「問い」に対応した「答え」を分かりやすくまとめて表現するために読み取った内容を条件の基で再構成して書き表させるといふ言語活動を行った。



<「答え」を書くための条件①>

「どうやって～でしょうか。」という「問い」の「答え」にあたる内容を全体で読み取り、分かりやすくまとめて書き表すために、次のような条件を設けて書かせた。条件は、①「まず」「次に」「最後に」やナンバリング等の順序を表す接続語を使うこと ②120文字以内で記述することである。条件に沿って書くために児童は、教材文と言葉を自分の言葉で補いながらつないで、再構成し直して書いていた。その後、スクリーンを使って全体で書いたものを交流した。



シースクリーンに児童のワークシートを映し、児童が使用した接続語や本文を補いながら交流し加えた言葉に線を引き交流した。

<条件にそってワークシートを書く児童と交流の様子>

児童のワークシートを見ると、ほとんどの児童が内容を読み取る記述が書けていた。3%の児童は問われたこと以上の内容を含んで記述していた。また条件①の順序を表す接続語が適切に使われていた児童は9割だった。順序を表す接続語については、ほとんどの児童が適切に使えた。個に応じたヒントのワークシートを用意していたことも効果的だった。しかし実生活において接続語を適切に使って、自分の考えを文章で表現していくためには、さらに接続語の働きを理解させることが大切で、作文指導や言語の小単元学習の工夫が必要と考える。条件②の120文字以内で適切な内容を記述していた児童は9割だった。読み取った内容を字数制限の中でまとめるために、ヤドカリの行動を示す言葉を児童は精選し、接続語でつないで書いていた。字数制限を超えた児童は、ヤドカリの行動を表す表現をすべて書いたり、ここでは特に必要でない内容を書いたりしたことで文字数の中に収まらなかった。字数制限内で分かりやすくまとめるためには、中心となる言葉や文を必要なだけ選んで自分の言葉で再構成して書いたり、書いたものが条件にあっているか推敲したりする力が必要だと考える。そのために、児童が興味関心をもっている文章や新聞記事等を使い再構成をしたり、間違い見つけクイズのような推敲をしたりするミニ学習を計画的に単元に入れる等、児童が意欲的に学べるような工夫を行うことが大切だと考える。

生き物マップをしようかしよう!

本の題名 ヤドカリとイソギンチャク
～中2のまどまり～

本の作者 たけ田 正つね

の	ソ	分	か	は	て	方	ツ	イ	○	読
具	キ	の	ク	ガ	の	ツ	ツ	ギ	ス	読
カ	ン	の	見	え	し	は	ギ	ス	ス	読
ら	チ	カ	ガ	キ	マ	ン				読
に	ヤ	ラ	ヨ	キ	ミ	ス	チ	ヤ		読
ウ	ク	レ	ト	ウ	シ	テ	ド			読
つ	を	う	お	に	さ	チ	カ	カ		読
し	た	し	い	ヤ	ハ	の	り			読
ま	自	つ	て	後	ク	ハ	休	は		読
す	分	け	自	に	を	満				読

問い
ヤドカリは、何をしていたイソギンチャクを、どうして自分の居るところまでよってきたか。

条件を満たし記述している。接続語は「まず」「次に」「最後に」でつなぎ、「このように」でまとめている。「近づく」というヤドカリの行動を省略し字数以内に記述している。(B)

条件を満たしている。「まず」「次に」の接続語でつなぎ方法などで「このように」でまとめている。「近づく」を省略し、字数以内に記述している。(B)

生き物マップをしようかしよう! 名前

本の題名 ヤドカリとイソギンチャク
～中2のまどまり～

本の作者 たけ田 正つね

ン	カ	の	カ	ミ	ン	の	を	リ	○	読
チ	の	見	え	し	は	ギ	ス	ス		読
ヤ	カ	ガ	キ	マ	ン					読
ク	レ	ト	ウ	シ	テ	ド				読
を	カ	の	ウ	を	な	て	ツ	め		読
う	て	人	に	て	は	ど	う	だ	ギ	読
ク	の	た	い	の	ク	て	は	カ	ン	読
し	お	お	て	イ	キ	リ	キ			読
ま	ソ	し	た	イ	ツ	た	両	ト		読
す	キ	し	つ	分	が	し	キ	リ	カ	ク

問い
ヤドカリは、何をしていたイソギンチャクを、どうして自分の居るところまでよってきたか。

条件を満たしている。接続語「まず」で始まり、「近づく」「つつく」「ひっぱる」「はがす」という切り離す行動を一文にし、「そして」でつなぎ「かかえる」「おしつける」というくっつける行動を一文にし、最後に「このように」でうつつす方法をまとめて、字数以内に記述している。(A)

<評価がB及びA児童のワークシート>